

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「テンプレトン・グローバル株式ファンド（愛称：株の祭典）」は2018年11月28日に第12期の決算を行いました。当ファンドは、主として世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

第12期末（2018年11月28日）	
基準価額	10,198円
純資産総額	729百万円
第12期 （2017年11月29日～2018年11月28日）	
騰落率	-2.4%
分配金合計	190円

（注）騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

テンプレトン・ グローバル株式ファンド （愛称：株の祭典）

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第12期（決算日 2018年11月28日）

作成対象期間：2017年11月29日～2018年11月28日



FRANKLIN TEMPLETON
INVESTMENTS

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社
東京都港区六本木1丁目9番10号

〈お問い合わせ先〉

お客様ダイヤル

電話番号：03-6230-5699

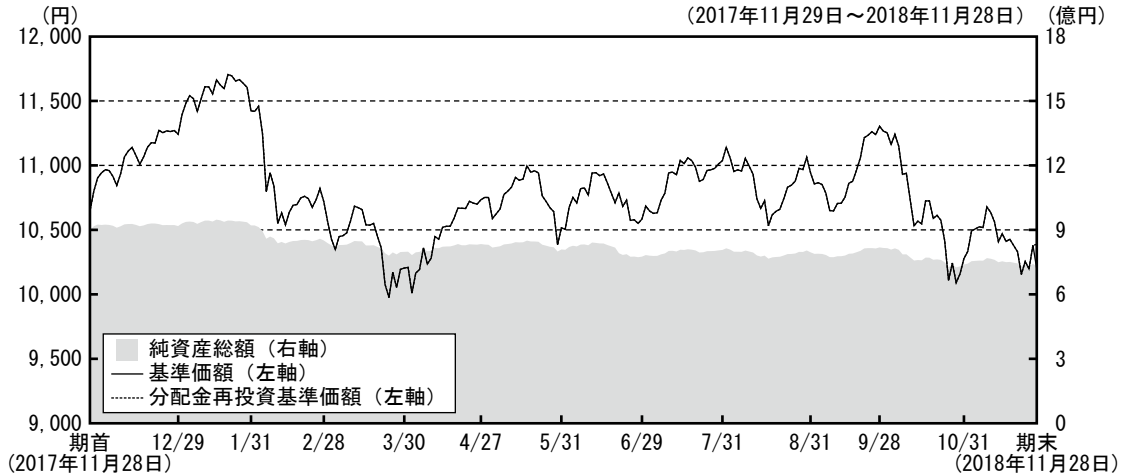
受付時間：9:00～17:00

（土・日・祝日および12月31日・1月2日・1月3日を除きます。）
ホームページ：<http://www.franklintempleton.co.jp/>
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記〈お問い合わせ先〉ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第12期首：10,647円
 第12期末：10,198円 (既払分配金190円)
 騰落率：-2.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドがマザーファンドを通じて投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

2 基準価額の変動理由

当期の当ファンドの基準価額(円建て)の値下がり、米ドルは円に対して上昇したものの、投資対象ファンドの基準価額(米ドル建て)が値下がりしたことによるものです。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

(上昇要因)

- ・外国為替市場で米ドルが円に対して上昇したこと
- ・地域別では、保有する一部の中東、米国の企業の株価が上昇したこと
- ・セクター別では、保有する一部のエネルギーやコミュニケーション・サービス関連企業の株価が上昇したこと

(下落要因)

- ・地域別では、保有する一部のアジア、欧州企業の株価が下落したこと
- ・セクター別では、保有する一部の金融や資本財・サービス関連企業の株価が下落したこと

3 1万口当たり費用明細

項目	当期 2017年11月29日～2018年11月28日		項目の概要
	金額(円)	比率(%)	
(a) 信託報酬	134	1.242	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率、期中の平均基準価額は10,823円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(30)	(0.281)	
(販売会社)	(99)	(0.918)	
(受託会社)	(5)	(0.043)	
(b) その他費用	2	0.017	(b) その他費用＝ $\frac{〔期中のその他費用〕}{〔期中の平均受益権口数〕}$ その他費用 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、金銭信託預入に係る手数料等
(保管費用)	(1)	(0.009)	
(監査費用)	(1)	(0.007)	
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	136	1.259	

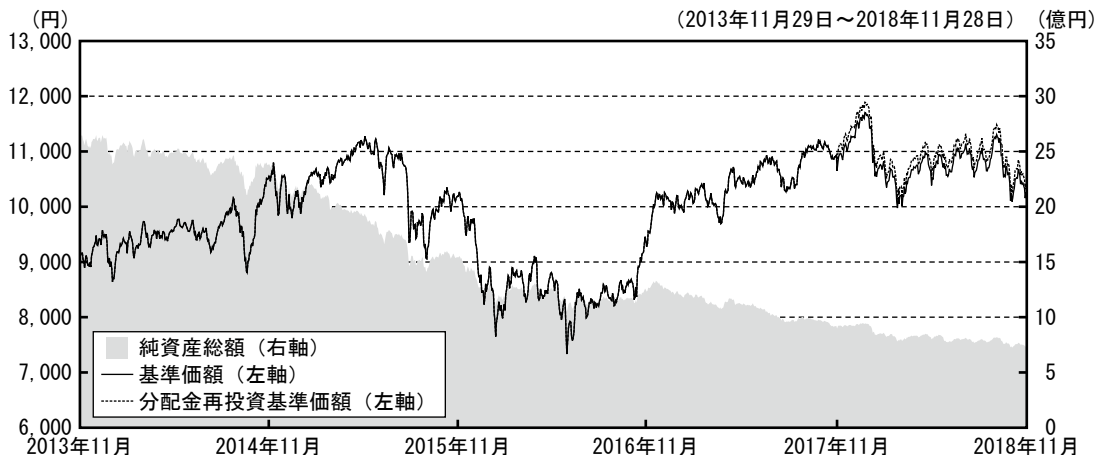
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

4 最近5年間の基準価額等の推移


(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2013年11月28日 決算日	2014年11月28日 決算日	2015年11月30日 決算日	2016年11月28日 決算日	2017年11月28日 決算日	2018年11月28日 決算日
基準価額 (円)	9,088	10,559	10,195	9,381	10,647	10,198
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	170	190
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	16.2	-3.4	-8.0	15.3	-2.4
純資産総額 (百万円)	2,627	2,384	1,543	1,248	896	729

(注) 当ファンドは、「テンブルトン・グロース・ファンド Advisor Class」、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グロース (ユーロ) ・ファンド Class I (Ydis) USD」および「テンブルトン・グロース・ファンドⅡ」に投資するファンド・オブ・ファンズです。

ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

5 投資環境

(世界の株式市場)

当期の世界の株式市場は、期首から2018年1月下旬にかけては、堅調な世界経済、企業業績の改善、米国の景気刺激策などが好感され大幅に上昇しました。

しかし、2月上旬には、インフレ懸念による米長期金利の上昇を受け、世界の株式市場は急落しました。その後6月末にかけては、通商問題への警戒感や欧州の政治情勢の不透明感から投資家のリスク回避姿勢が強まる一方、世界経済は堅調を維持し、好調な企業業績が発表されたことから株式市場は方向感に欠ける展開となりました。

7月以降は、堅調を維持する企業業績が好感されたほか、貿易面では、米国がカナダおよびメキシコとの北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉で合意したことを受け、投資家のリスク回避姿勢が後退したことから世界の株式市場は9月末にかけ堅調に推移しました。

しかし、10月以降は、イタリアの財政不安や英国の欧州連合（EU）離脱を巡る不透明感のほか、米中貿易摩擦の激化や米国の追加利上げによる世界経済の減速懸念などから世界の株式市場は急落しました。期末にかけては、やや値を戻す場面もあったものの、結局期首から下落して当期を終えました。

(外国為替市場)

当期の外国為替市場では、期首から2018年3月下旬にかけては、日本銀行（日銀）が緩和政策の出口戦略を模索しているとの思惑や世界的な株安を受けた投資家のリスク回避姿勢の高まり、更にはトランプ米大統領の保護主義的な貿易政策に対する懸念などからドル円相場は期首の1米ドル111.00円から104円台半ばまで円高ドル安が進みました。

4月上旬には、米中貿易摩擦を巡る懸念や北朝鮮情勢への警戒感が和らいだことなどからドルは買い戻される展開となりました。その後も原油価格の上昇、米長期金利の上昇や世界的な株高などからドル買いの勢いは増し、7月中旬には1米ドル113円近辺まで円安ドル高が進みました。

その後8月中旬にかけては、米中貿易摩擦への警戒感やトルコ情勢への懸念によるリスク回避姿勢の高まりからドル円相場は一時1米ドル110円近辺まで下落しましたが、9月以降は、米国がメキシコおよびカナダとの北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉で合意したことを受け、ドル高基調に戻り10月上旬には1米ドル114円台半ばまで円安ドル高が進みました。

期末にかけては、欧州の政局不安や世界的な株安を受けて1米ドル112円を割り込む場面もありましたが、米長期金利の上昇や堅調な米国経済指標などを受け、米ドルの対円相場は上昇し期首を上回る1米ドル113円台後半で当期を終えました。

6 当該投資信託のポートフォリオ

(当ファンド)

投資対象ファンドである「テンプレートン・グロース・ファンド（米国籍投資法人）」、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」および「テンプレートン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）」に投資を行いました。当期末の各ファンドの組入比率は、米国籍が11.2%、ルクセンブルク籍が11.2%、ケイマン籍が76.9%となりました。

(投資対象ファンド)

当期、米国の金利上昇、貿易摩擦への警戒感、欧州の政局不安などを背景に世界の株式市場が下落したことを受け、ファンドの基準価額（米ドル建て）は値下がりしました。

当期の投資対象ファンドの組入れ状況をMSCI World インデックス*と比較すると、業種ではヘルスケア、コミュニケーション・サービス、エネルギーなどの組入比率が高くなった一方で、情報技術、生活必需品、一般消費財・サービス、資本財・サービスなどの組入比率が低くなりました。また、地域配分では、欧州株式の組入比率が高く、米国株式と日本株式の組入比率が低くなりました。

当期の投資対象ファンドの基準価額（米ドル建て）の値下がりには、業種では主に金融、資本財・サービスなどの個別銘柄がマイナスに寄与し、地域別では主に欧州、アジアの個別銘柄がマイナスに寄与しました。

*MSCI World インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

8 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第12期
	2017年11月29日～2018年11月28日
当期分配金	190
(対基準価額比率)	1.829%
当期の収益	48
当期の収益以外	141
翌期繰越分配対象額	939

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

○市場見通し

世界の金融市場は再び動揺していますが、これは相場転換のシグナルであると考えます。特に、米連邦準備理事会（FRB）をはじめ主要国・地域の中央銀行が金融政策の正常化を進めていることが最大の要因です。長期に亘り続いた緩和政策が強気相場に与えた影響を正確に把握することは難しいと考えますが、中央銀行のバランスシートの拡張期と世界のマネーサプライ、債務、企業収益の拡大および金融資産の値上がり時期は一致しています。この他には、海外資金の還流を促す「レパトリ減税」を含む米国の減税措置や低金利で調達した資金での自社株買いも米国株式市場の上昇要因となりましたが、こうした効果は剥落しつつあります。金融政策の正常化を含むこうしたマクロ環境の変化が今後の金融市場に与える影響を推し量ることは難しいと思われませんが、足元上昇したボラティリティ、金利上昇、先進諸国の住宅市場の低迷、新興国市場の混乱などに鑑みれば、相場は転換点に差し掛かっていると考えます。こうした市場環境の変化が進むにつれ、今後は割高な株やセクターから割安株へのローテーションが起こると考えます。金融政策などを背景とした流動性相場からファンダメンタルズに基づく株価形成機能が重視される市場環境に移行する中で、長期的な本質的価値に対して割安となっている銘柄を発掘する当戦略は長期にわたる投資収益の獲得に寄与すると考えます。

○運用方針

（当ファンド）

当ファンドは、運用の基本方針に基づき、投資対象ファンドである「テンプレートン・グロース・ファンド（米国籍投資法人）」、「テンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」および「テンプレートン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）」へ投資を行ってまいります。

（投資対象ファンド）

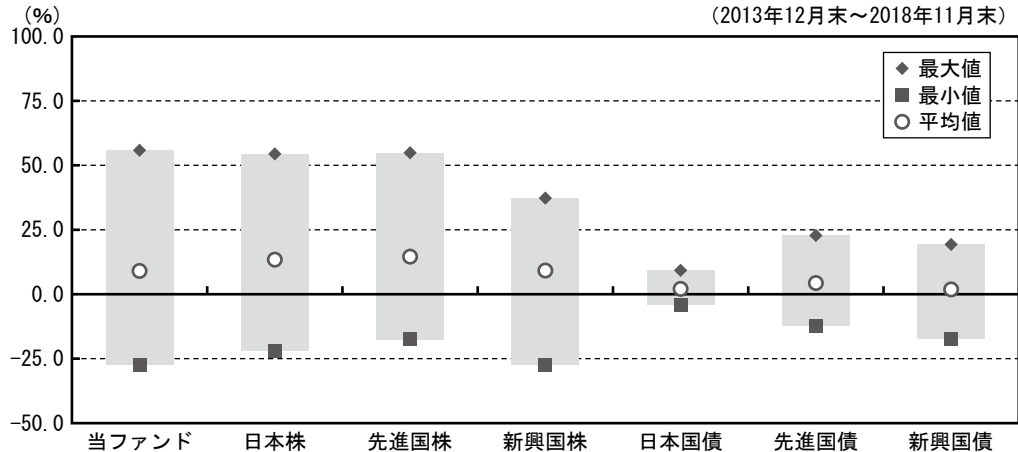
長期投資の観点では、ファンダメンタルズ重視の投資家にとっては魅力的な株式への投資機会がもたらされていると考えており、企業価値が株価に十分織り込まれていないと思われる銘柄に注目しています。今後も、あらかじめ特定の業種・国・地域等への投資配分を定めず、株価がテンプレートンの投資理念に基づいて評価した企業価値を下回り割安な水準にあると判断できる銘柄を、長期投資の観点とボトム・アップアプローチにより発掘し投資してまいります。

引き続き当ファンドをご愛顧いただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	主として、世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・テンブルトン・グロース・ファンド（米国籍投資法人） ・フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人） ・テンブルトン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）
	テンブルトン・グロース・ファンド	世界各国（新興国を含む）の株式
	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グロース（ユーロ）ファンド	
	テンブルトン・グロース・ファンドⅡ	
運用方法	<p>テンブルトン・グロース・ファンド、フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グロース（ユーロ）ファンド、テンブルトン・グロース・ファンドⅡの3つの外貨建て投資信託証券（投資対象ファンド）を通じて、主として世界各国の株式に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指します。</p> <p>当ファンドの外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わないこととします。</p>	
分配方針	<p>毎決算時（毎年11月28日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <p>③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	9.0	13.4	14.5	9.1	2.0	4.3	1.8
最大値	55.8	54.4	54.8	37.2	9.3	22.7	19.3
最小値	-27.4	-22.0	-17.5	-27.4	-4.0	-12.3	-17.4

2013年12月～2018年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当該投資信託のデータ

1 当該投資信託の組入資産の内容

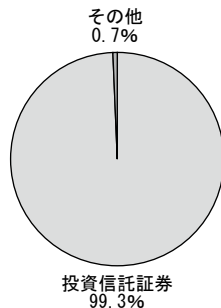
○組入ファンド

(組入銘柄数：3銘柄)

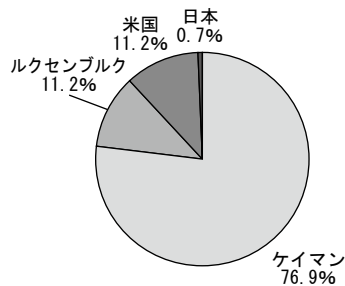
	第12期末
	2018年11月28日
テンプレートン・グロース・ファンドⅡ	76.9%
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズー テンプレートン・グロース (ユーロ) ・ファンド	11.2%
テンプレートン・グロース・ファンド	11.2%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

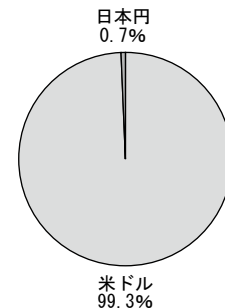
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

2 純資産等

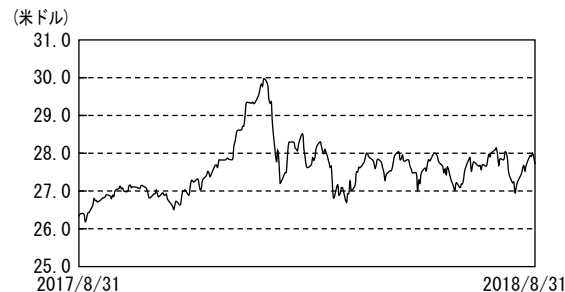
項目	第12期末
	2018年11月28日
純資産総額	729,369,701円
受益権総口数	715,189,696口
1万口当たり基準価額	10,198円

(注) 当期 (第12期) 中における追加設定元本額は39,799,061円、同解約元本額は166,789,000円です。

3 組入上位ファンドの概要

◆テンプレートン・グロース・ファンド（2017年9月1日～2018年8月31日）

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするAdvisor Classの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2017年9月1日～2018年8月31日)

管理報酬	0.68%
名義書換事務代行報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.11%
合計	0.79%

(注) 当ファンドが投資対象とするAdvisor Classの数値です。
 (注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

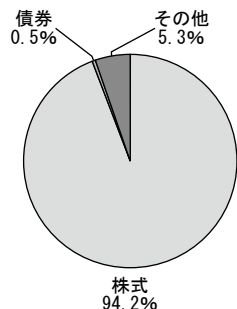
○上位10銘柄

(2018年8月31日現在)

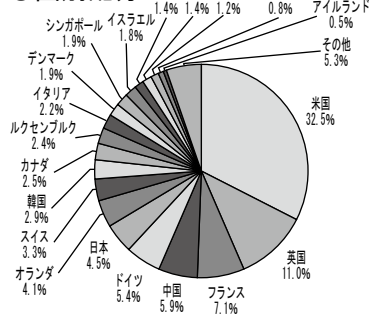
銘柄名	国名	業種	比率
SES SA, IDR	ルクセンブルク	メディア	2.36%
Royal Dutch Shell PLC, B	英国	エネルギー	2.28
Citigroup Inc.	米国	銀行	2.26
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.15
BP PLC	英国	エネルギー	2.02
Oracle Corp.	米国	ソフトウェア・サービス	1.97
Singapore Telecommunications Ltd.	シンガポール	電気通信サービス	1.86
Teva Pharmaceutical Industries Ltd., ADR	イスラエル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.84
Eni SpA	イタリア	エネルギー	1.81
Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.79
組入銘柄数		95銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準（GICS）」の24の産業グループを使用しております。
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

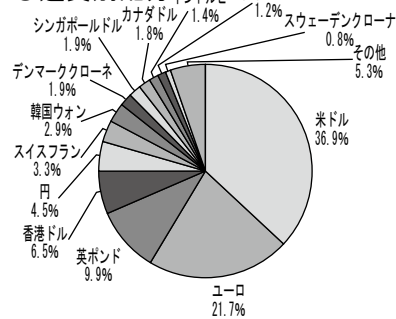
○資産別配分



○国別配分



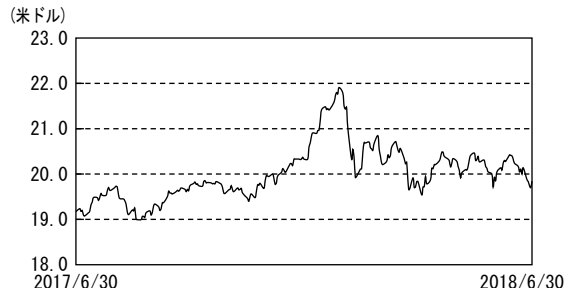
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年8月31日現在のものです。
 (注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド（2017年7月1日～2018年6月30日）

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I(Ydis)USDの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2017年7月1日～2018年6月30日)

運用報酬	0.70%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.27%
合計	0.97%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I(Ydis)USDの数値です。
 (注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

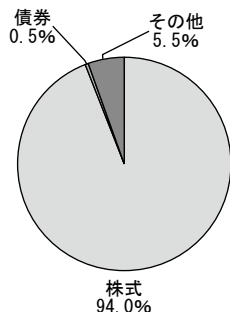
○上位10銘柄

(2018年6月30日現在)

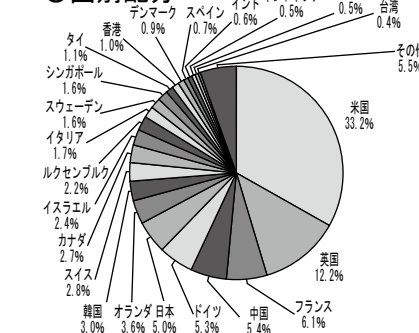
銘柄名	国名	業種	比率 %
Royal Dutch Shell PLC, B	英国	エネルギー	2.50
Teva Pharmaceutical Industries Ltd., ADR	イスラエル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.38
SES SA, IDR	ルクセンブルク	メディア	2.18
BP PLC	英国	エネルギー	2.11
Citigroup Inc.	米国	銀行	2.03
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.89
Oracle Corp.	米国	ソフトウェア・サービス	1.79
Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.77
Eni SpA	イタリア	エネルギー	1.72
Kingfisher PLC	英国	小売	1.67
組入銘柄数		95銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準（GICS）」の24の産業グループを使用しております。
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

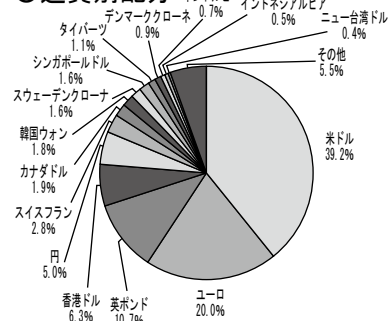
○資産別配分



○国別配分



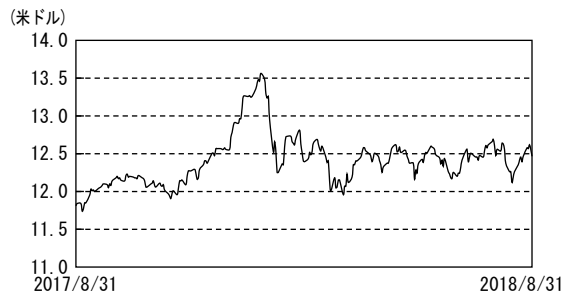
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年6月30日現在のものです。
 (注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆テンプレートン・グロース・ファンドⅡ（2017年9月1日～2018年8月31日）

○基準価額の推移



(注) 分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2017年9月1日～2018年8月31日)

運用報酬	0.63%
管理事務代行報酬、名義書換事務代行報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.20%
合計	0.83%

(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位10銘柄

(2018年8月31日現在)

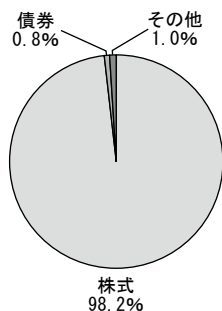
銘柄名	国名	業種	比率 %
SES SA, IDR	ルクセンブルク	メディア	2.58
Citigroup Inc.	米国	銀行	2.35
Royal Dutch Shell PLC, B	英国	エネルギー	2.29
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.29
Singapore Telecommunications Ltd.	シンガポール	電気通信サービス	2.19
Eni SpA	イタリア	エネルギー	2.15
BP PLC	英国	エネルギー	2.09
Oracle Corp.	米国	ソフトウェア・サービス	2.07
Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.91
Teva Pharmaceutical Industries Ltd., ADR	イスラエル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.85
組入銘柄数		84銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

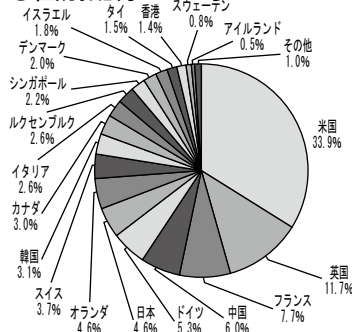
(注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準（GICS）」の24の産業グループを使用しております。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

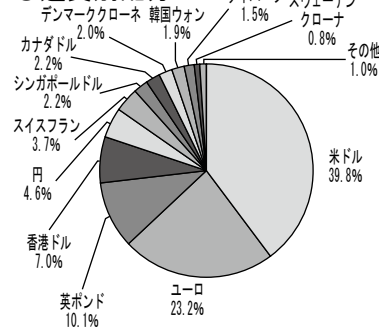
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年8月31日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）の商標又は標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、株東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、株東京証券取引所は、本商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、NOMURA-BPI 国債を用いて行われるフランクリン・テンブルトン・インベストメンツ株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。



FRANKLIN TEMPLETON INVESTMENTS

フランクリン テンプルトン インベストメンツは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン テンプルトン インベストメンツの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。